似顔絵でひと夏の思い出づくり

団体名：美術研究会　（金城大学短期大学部）
参加学生：大坂　唯、井戸紗耶可、上田　葵、岸　佑香、日下まや、斉藤みのり、中谷友紀、
　　廣瀬花央、山西千春、米田裕美

・活動期間　　平成２１年７月３１日～８月１日

１．地域活動の概要

　社団法人金沢青年会議所主催の『金澤夕ぐれ祭』に毎年ブースを出店，地域活動に応募し，そこで本学美術学科の学生が授業を通して習得した手法を用いて来場者の似顔絵を描くことにより，会場を盛り上げ地域の賑わいに活かす。

２．地域活動の具体的な内容

　毎年社団法人金沢青年会議所主催の『金澤夕ぐれ祭』には参加しているが，ここ三年間は「似顔絵ブース」を出店することで，本学美術学科の学生有志が演習授業で学んだことを地域の方で生かす機会となっている。

　学生の構成として，マンガ・キャラクターコースからの参加者が一番多く，デザインコース，日本画コース，陶芸コースから各１～２名であった。マンガ・キャラクターコースの授業課題で人物を多角的に描くことが多く，そのことから似顔絵の参加率が高いのではないかと思われる。

　このブースで学生達が描く似顔絵は，夕ぐれ祭の来場者の出足や天候に左右されるものの，一日当たり２００～３５０枚までおよぶこともある。１０名の学生でローテンションを組んで運営しているが，時間帯によっては長蛇の列ができるほどである。

３．地域貢献活動の評価

学生の意見

・似顔絵を描く相手を前にして作業することが，日ごろの学校での制作している状況とは異なり，仕上がった作品を見て相手が喜んだりする表情を直接感じることが新鮮でもあり，そのことが今後の制作に影響していくようで，自分にとっては楽しい経験であった。
・似顔絵を描くとき，鉛筆デッサンするように対象をリアルに表現するよりも，ある程度キャラクターのように線を単純化して特徴を生かして表現したほうが，作業が早く枚数も多くこなせた。
・描きながら相手と会話をするということが，日常にはない体験で楽しかった。また，会話の内容からヒントを得て，描いた顔の横に一言添えて書いたりしたことが好評であった。

４．今後，この地域活動を継続，活発していくために必要なもの，及び課題

・一番の課題は，似顔絵を描く側の動員である。
　今回の参加者１０名中８名が２年生で１名が研究生であり，卒業生も１名加わってはいるも

のの９名が昨年度の夕ぐれ祭の似顔絵経験者で，新たなメンバーは１名であった。
次回の夕ぐれ祭は参加にむけて現１年生を中心に広く呼びかけると共に，経験者である卒業生であっても日程の調節が可能であれば参加できるようにしていきたい。

・各大学別のブースでの作業であったが，テントの上側に大学名の看板はあるものの似顔絵の内容を示すものは外部からわかりにくかった。描いた作品をボードに展示することや，看板を置くなど，来場者が利用しやすいよう工夫していきたい。

５．その他

夕ぐれ祭以外の活動として，大学近郊の『笠間デイサービスセンター』においてここ１０年ほど似顔絵のボランティアを継続しており，利用者の方々に好評をいただいている。施設の活性化にも一役かっているようで，今年度は白山美術館において似顔絵展を開催し，デイサービスセンター内でも展示した。今後もこのように地域につなげていくよう取り組んでいきたい。